

子育て・孫育ては

男の喜び!



タレント
関根 勤 さん

TBS「ぎんぎNOW」の素人コメディアン道場で初代チャンピオンとなり1974年12月に芸能界入り。デビュー後1975年には「ラビット関根」の芸名を桂三枝師匠よりいただく。1982年にANB（現テレビ朝日）「欽ちゃんのどこまでやるの!？」レギュラー出演の際、番組内容により本名「関根勤」に戻し活動、現在に至る。バラエティ番組を中心に、テレビ・ラジオ、CM、舞台など幅広く芸能活動を行っている。

テレビ、ラジオ、舞台を中心に、長年多くの人を笑わせ楽しませてきた関根勤さん。家庭では、子育てにじっくり取り組んできたよき父親でもあります。今、お孫さんに恵まれて孫育てにも意欲を燃やす関根さんに、子育て・孫育ての極意をお伺いしました。

お忙しい中での子育ては大変でしたか？

それがねえ、子ども(タレントの関根麻里さん)が生まれた頃は、まだ私も若くて、テレビやラジオのレギュラーもそんなになくて、仕事も夜がほとんどだったし、昼間に家にいることが多かったんです。

だから、麻里とはずいぶん遊びましたね。ずっと一緒にいて、バカなことばかりやってね。お風呂に一緒に入ると、麻里の目の前で「ケツケツケツケツ」って歌いながらお尻を振って踊ってへちへち叩かせる「ケツケツダンス」をやったりとか、寝る前に私流にアレンジした『桃太郎』を聞かせたりとか。川をどんぶらこっこ、すっこっこ流れてきた桃を拾うと、それがなんと川に落ちて流されてきた花咲か爺さんのお尻だった、というところから始まる、これもお尻ネタだったんですけど(笑)。

いずれもその場で思いついて即興で始めた遊びなんですけど、麻里が喜んでくれるのはどんどん進化というか育つって。『桃太郎』なんかは思いついたギャグをいろいろ入れていったら、最終的には一時間近いお話にまで膨らみました。

そのうちに、麻里のほうもボケるといことがわかってきて、私のことを笑わせようという工夫してく

